



防犯灯器具メーカーの協力により実現！

## 「稲の生育への影響の少ない防犯灯」 の実証実験を行います。



横浜市では、夜間の地域住民の歩行の安全確保と犯罪の防止を図るため、防犯灯を設置しています。このたび、横浜市（市長：林 文子）とかがつう株式会社（代表取締役社長：野崎信春）が連携して、青葉区内の耕作地域にある登下校ルートへの安全確保を図るため、稲の生育への影響（光害（ひかりがい））を軽減した LED 防犯灯器具を設置する実証実験を行うことになりました。

### 1 経緯

今回、実証実験の対象となった青葉区恩田町の横浜市道恩田 390 号線は、横浜市立田奈小学校の児童および横浜市立あかね台中学校の生徒が多数利用しており、自治会町内会や学校 PTA をはじめ、地域では防犯灯設置に対するニーズがありました。

しかし、沿道は田畑が広がる耕作地域で、防犯灯の光による光害が懸念されたことから、これまで防犯灯の設置にまで至りませんでした。

こうした中、防犯灯器具を製造しているかがつう株式会社様から、光害による影響を軽減した LED 防犯灯器具の設置について、民間事業者との連携窓口である「共創フロント」を通じてご提案をいただきました。



### 2 事業概要

今回の実証実験では、かがつう株式会社様から、光害の影響を軽減した防犯灯器具をご提供いただき、青葉区恩田町内の横浜市道にある電柱 4 本に設置し、稲への影響の軽減と登下校ルートの安全確保の両立について確認します。

#### (1) 実施場所

青葉区恩田町内 横浜市道恩田 390 号線沿道の電柱 4 本



《裏面あり》

(2) 開始時期

平成 31 年 4 月

(3) 設置する防犯灯器具および特徴

かがつう株式会社製 光害防止 LED 防犯灯 KLE-138-18-LPP

《特徴》

本製品は、山口大学農学部（株式会社アグリライト研究所）光害防止技術の研究開発成果を用いた LED 防犯灯です。

- ・ 自然環境で生育している農作物は、夜間照明の光を受け続けると、「昼の時間が長い」と錯覚し、昼夜の長さによる季節の移り変わりを認識できず正常な生育が妨げられる「光害」が発生します。

具体的には、稲の場合、夏至を過ぎて昼の長さが一定の時間より短くなると、稲の「穂」を出す準備を始めますが、水田の一部に夜間照明の光が当たると、その部分だけ「穂」の出る時期が遅れ、稲の成熟が遅れた青米が混ざり、コメの等級が下がるなど、農業生産に影響が出ます。

- ・ 今回設置する LED 防犯灯器具は、照明光の波長を調整するとともに、人の目には見えない速度（1秒間に数千回）で点滅させることで、植物には感じにくい光とし、生育への悪影響の軽減を図っています。



【設置前と設置後の現地の様子】



(設置前)



(設置後)

お問合せ先

【実証実験について】	横浜市市民局地域防犯支援課長	坪井 豊	Tel 045-671-2601
【光害防止LED防犯灯について】	かがつう株式会社東京営業所	免田 徹	Tel 03-6661-6380